

児童と楽しく会話をする納入業者の緒方信二さん(右から二人目)



会話も弾む新鮮野菜の給食

御船小で交流給食会

御船小学校(佐藤公一郎校長、323人)で1月19日、野菜生産者、集荷業者や納入業者を招いた給食交流会が開かれました。これは、毎月19日の「食育の日」に合わせて、地元の野菜農家などと会食を行い、地場産物への関心を高める取り組みとして今回で3回目。この日の献立には、渡邊洋一さん(上野)が収穫した、ダイコンと白ネギを使った豚汁や麦ご飯などの4品。参加者と児童は、話を弾ませながら給食を口に運んでいました。4年の松永謙蔵くん(辺田見)は、「野菜が柔らかくておいしかったです」と話していました。

わるい鬼をやっつけろ

御船昭和保育園豆まき会

春を告げる伝統行事「節分の日」にちなんで2月3日、御船昭和保育園(沖田昌史園長、151人)で豆まき会が行われました。手作りのお面やますを身につけた園児たち。節分の由来など劇をとおして楽しんだ後、鬼が登場。怖くて泣き出す園児もいましたが、その気持ちをグッとこらえて豆をまくと悪い鬼は逃げていってしまいました。福の神も登場し、安心した園児たちからは笑顔がこぼれていました。年中児の吉村颯汰くん(御船)は「おうちに帰ってかぞくみんなで豆を食べるよ」と話していました。



年長児が豆をまき、その豆でみんなは鬼をやっつけます

御船が誇る技動日本一の志

全国中学生アイデアロボコン大会

第11回全国中学生創造アイデアロボットコンテスト大会が1月22、23日の両日、東京都銀座中学校で開催され、九州代表の御船中学校(加藤敬之校長、498人)の3チームが2部門で、ベスト8とベスト16の好成績を収めました。大会には、全国6ブロックを勝ち抜いた83チームが出場。競技は、ロボットを操作してタイムや得点を競う授業内部部門や応用部門などに、ロボットの製作映像を紹介するプレゼンテーションを合わせた総合評価で行われました。その結果、授業内部部門で「新生御船」がベスト8でプレゼン賞を受賞し、応用部門で「以心伝心2nd」がベスト16、「OTR」がベスト16で毎日新聞社賞を受賞しました。全国大会のコメントと結果は次のとおり(順不同敬称略)。

▼新生御船・真田瑞生キャプテン(2年・陣)

全国大会はロボットのアイデアの差で負けたと思いますが、やれるだけのことはやったので満足しています。来年3年生として、ロボコン大賞を目指して頑張ります。

▼以心伝心2nd・野口圭部長(3年・滝川)

決勝リーグでミスが出て負けたことが悔しいです。だけど全国大会へ行けたのも、地域の人、保護者、先生の支援や応援のおかげです。感謝しています。

▼OTR・吉住亜里紗キャプテン(3年・辺田見)

チーム意識がまとまったから、全国大会へ出場できました。全国には女子の多いチームもあります。女子にも入部してもらい、戦力になってもらえたらうれしいです。

全国で技動日本一を貫いた御船中技術・ものづくり部



▼顧問・大塚芳生教諭

大会をおうごとに、生徒たちの志や視野が成長する姿はたくましく、技道日本一でした。それは、日本一自慢できる生徒たちです。これも毎年、募金活動をいただいているPTAや町商工会など、多くの皆さんの支えがあつてのことです。本当に感謝しています。

【授業内部部門】

▽新生御船(全国大会ベスト8・プレゼン賞)

真田瑞生、瀧上斗誠、矢壁孝志、樋口勝誠、三角拓人

【応用部門】

▽以心伝心2nd(全国大会ベスト16)

野口圭、岩上佳史、高添進也、森友規、村上大周

▽OTR(全国大会ベスト16・毎日新聞社賞)

吉住亜里紗、江本健留、藤田朗史、杉原一成、光永光太

伝統行事が50年ぶりに復活

滝尾地区でモグラ打ち



庭先の地面を思いっきり「わらたば」で叩く子どもたち

滝尾地区で半世紀もの間途絶えていた「モグラ打ち」が1月12日、竹の迫と横野で復活しました。これは、子どもたちに伝統行事を伝えることや外で元気に遊んでもらおうと福永明夫さん(滝尾)が企画し、滝尾青少年健全育成(竹本五男会長)に提案して実現したものです。まず、参加した滝尾小学校児童8人は、「モグラ打ち」に使用する「わらたば」作りに挑戦。両手で持ちやすい大きさにわらを束ねて、かすらをきつく巻きつけながら、長さ約70センチの「わらたば」を完成させました。夕方から、約20軒を巡り、庭先の地面を「わらたば」で叩いて、モグラを撃退。すると家主から、ご褒美のお小遣やお菓子が手渡されていました。参加した滝尾小6年の緒方斗志記くんは、「腰を入れないと強く叩けません」と話していました。

愛され続ける白壁の町並み

松永忠勝さん「まぼろしの蔵の町」写真展



店内の壁や柱に余すことなく展示された「酒倉」の写真

御船の町並みと時代を撮り続けてきた写真家の松永忠勝さん(滝川)が1月13日から25日まで、「まぼろしの蔵の町」と題した写真展を珈琲店ミック(八代市)で開催しました。作品は、昭和40年代の御船川付近を中心に撮影した酒造元の酒蔵、白壁、赤レンガの煙突などのモノクロ写真大小約30点。かつて御船は、県下第一の「酒造りのまち」として栄えていましたが、昭和の不況や酒の消費低迷で、昭和50年代にすべて廃業し、昭和60年代に「白壁の酒蔵」は完全消滅しました。展示された写真は、松永さんが平成2年に発行した写真集「酒倉」から選りすぐりのものばかりで、愛された町並みが店内と客を包み込んでいました。松永さんは、「昔を思い出して、何かを感じてもらえたらうれしい。御船町での開催も検討中です」と話していました。